

文献

宮原 由佳, Munisamy Murallitharan, Surasa Khongprasert, Chapman Robert S., 林 明人, Bhidayasiri Roongroj. 握力評価から考察されるパーキンソン病における上肢筋力低下症状に対するタイ古式マッサージの効果の検討 ランダムマイズスタディ. *運動障害*. 2018; 28(1): 1-8. 医中誌 web ID 2018382920

1. 目的

パーキンソン病患者の上肢筋力低下症状に対するタイ古式マッサージ(TTM)の効果を検討する。

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験

3. セッティング

バンコクの King Chulalongkom Memorial Hospital

4. 参加者

パーキンソン病と診断され標準的な抗パーキンソン病薬の投与を受けている患者 56 人

5. 介入

Arm 1: 施術群 28 人

通常の薬物療法に加え、1 回 20 分の上肢への TTM を 3 週間で 6 回実施

Arm 2: 非施術群 28 人

通常の薬物療法

6. 主なアウトカム評価項目

握力測定、統合パーキンソン病評価尺度 (UPDRS)、パーキンソン病患者 QOL 評価 (PDQ39)、不快感・痛みの程度 (NRS)、測定は介入前と介入後に行った。なお、介入後の測定について、施術群では、6 回目の最後の施術から 1 週間後に、非施術群では、介入前測定から 4 週間後に行った。

7. 主な結果

両群間では握力 ($p<0.001$)、UPDRS 総合点 ($p=0.008$)、UPDRS の上肢部位 ($p=0.016$)、不快感と痛みの程度 ($p<0.001$) の改善に有意差がみられた。PDQ39 は両群において有意差はみられなかった。また、男女別、疾病期間別においては握力と不快感と痛みの程度で施術群の症状改善に有意差がみられた (男性 $p<0.001$ 、女性 $p<0.001$ 、疾病期間 1-5 年 $p<0.001$ 、疾病期間 6-10 年 $p=0.003$)。

8. 結論

TTM はパーキンソン病の上肢筋力低下症状に効果があると示唆された。

9. 論文中の安全性評価

記載なし

10. Abstractor のコメント

パーキンソン病患者の上肢筋力低下症状に対するタイ古式マッサージの効果を検討した報告はこれまでになく大変貴重な研究である。男女別や疾病期間別での効果についても分析がなされていることについては非常に興味深い。一方で、参加者は、比較的自助が可能な者が多いため、重症度の高いパーキンソン患者に対する効果についても検討が必要であるが、今回の成果と課題を踏まえた今後の研究に期待したい。

11. Abstractor and date

近藤宏 2021. 12. 1